

**バイオテクノロジー研究会**

**◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】**

<p>1, 2 月</p>	<p>部会開催 (2月15日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA 調査報告書第 26 号勉強会             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) ERA プロジェクト調査報告第 25 号 (JAN2016) 1/14 発刊。</li> <li>(イ) ERA プロジェクト調査報告第 25 号 (MARCH2016) 3 月発刊予定</li> </ul> </li> <li>2. ILSI CERA ワークショップ開催について             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) プログラム案を承認</li> <li>(イ) 日時：5 月 19 日、20 日、場所未定</li> <li>(ウ) 目的：Assessment Endpoints を明確にし、そのために必要な評価項目を科学的に精査し今後の生物多様性影響評価の在り方を探る</li> <li>(エ) 1 日目はオープンなワークショップ、2 日目は有識者とのクローズドなワークショップ。</li> </ul> </li> <li>3. 勉強会スケジュール             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 2 月 15 日 食安委事務局次長 東條氏</li> <li>(イ) 4-5 月 高度精製品のリスク評価のあり方</li> <li>(ウ) 6 月 アレルギー関係で手島先生が候補</li> <li>(エ) 10 月 未定</li> </ul> </li> <li>4. ISO 現状報告と今後について             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バイオ部会からは引き続き末木さんに委員として参加して頂く。</li> </ul> </li> <li>5. 勉強会開催 (2月15日)             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 講師：食安委事務局次長 東條氏</li> <li>30 名を超える参加者があり、食安委における遺伝子組換え食品に関する安全性評価について、活発な意見交換が行われた。</li> </ul> </li> </ol>
<p>3, 4 月</p>	<p>部会開催 (4月14日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA 調査報告書第 27 号勉強会             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) ERA プロジェクト調査報告第 26 号 (MARCH2016) 4 月発刊。</li> <li>(イ) ERA プロジェクト調査報告第 27 号 (MAY2016) 5 月発刊予定</li> </ul> </li> <li>2. -ILSI CERA ワークショップ開催について             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) プログラム案を承認</li> <li>(イ) 日時：5 月 19 日、20 日、場所：ベルサール日本橋</li> <li>(ウ) 目的：Assessment Endpoints を明確にし、そのために必要な評価項目を科学的に精査し今後の生物多様性影響評価の在り方を探る。講演者は全て決定。</li> <li>(エ) 1 日目はオープンなワークショップ、2 日目は有識者とのクローズドなワークショップ。</li> </ul> </li> <li>3. GM 食品添加物の問題点と今後について             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 微生物分科会委員より GM 食品添加物における 2 つの問題点についての報告があり、その ILSI Japan としてとるべき科学的アプローチに関する議論がなされた。</li> </ul> </li> </ol>
<p>5, 6 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA プロジェクト調査報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) ERA プロジェクト調査報告第 27 号 (MAY2016) 6 月発刊</li> <li>(イ) ERA プロジェクト調査報告第 28 号 (JULY2016) 8 月発刊予定</li> </ul> </li> <li>2. 5 月 19、20 日 ILSI CERA ワークショップ開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 日・米・豪の Assessment Endpoints とそのために必要な評価項目の比較が行われ、これからの生物多様性影響評価のあり方が議論された。</li> <li>(イ) 3 カ国間で Assessment Endpoints に大きな差異はなく、形態的特性、中でも雑草性の評価が重要であるとの理解が得られた。また、雑草性に関する評価を海外データにより評価することは科学的に可能であるとの議論がなされた。</li> <li>(ウ) 両日とも非常にオープンな雰囲気での科学的な議論が出来、大変有意義であった。</li> </ul> </li> </ol>

	<p>(エ) フォローアップの勉強会を9月か10月に行うことを検討中。</p> <p>3. 研究会は7月13日に予定。</p>
7, 8 月	<p>全体会議を7月13日に開催</p> <p>1. ERA プロジェクト調査報告第28号勉強会  (ア) ERA プロジェクト調査報告第27号 (MAY2016) 6月発刊  (イ) ERA プロジェクト調査報告第28号 (SEP2016) 9月発刊予定</p> <p>2. GM 食品添加物：問題点の理解と今後の進め方について討議。勉強会の開催やパブコメの際の意見提出などが話し合われた。今後は事態の推移を見ながら GM 食品添加物のグループが提案を出すことになった。</p> <p>3. 今後の勉強会：以下が提案された。  (ア) 「高度精製添加物の自主判断基準の考え方」、10月ごろ。  (イ) 5月の ERA ワークショップのフォローアップ勉強会、10-11月開催。  (ウ) 林先生の ILSI CERA の報告 (次回のバイオ研究会の際)。  (エ) アレルギー誘発性に関するワークショップは来年度。</p> <p>4. NBT ワークショップ：今後も検討を続ける。</p> <p>5. ERA 報告書の今後：幾つかのオプションが出、今後検討することとなった。</p> <p>6. 会計報告：現状を把握した。</p> <p>次回は9月16日。終了後、林先生の勉強会。</p>
9, 10 月	<p>全体会議を9月16日に開催</p> <p>1. ERA プロジェクト調査報告第29号勉強会  (ア) ERA プロジェクト調査報告第28号 (SEP2016) 9月発刊  (イ) ERA プロジェクト調査報告第29号 (OCT2016) 10月発刊</p> <p>2. GM 食品添加物の今後について：  (ア) 高度精製食品添加物：高度精製添加物の自主判断基準に関する7月29日の食安委専門調査会の議事録は出たが、親委員会にはまだ報告されていない。  (イ) 高度精製食品の考え方策定：日添協で協議する。  (ウ) 高度精製食品添加物の飼料としての使用：7月13日の食安委で食品として安全性を確認したものを飼料添加物としての使用がなされる場合は食安委への諮問は不要と報告。  (エ) 勉強会：アの自主判断基準が明確になった段階で考える。</p> <p>3. ERA ワークショップのフォローアップ勉強会  11月2日はスケジュールが合わない為延期とする。その後11月14日に行うことが決定、現在準備を進めている。約30人規模で開催。5月19、20日のワークショップで宿題となった競合における優位性を見るための評価項目の検討を行う。</p> <p>4. NBT ワークショップ  (ア) 11月15日に決定したが、その後、最新の知見の発表が11月15日では間に合わないとの事で、来年2-3月に延期することとなった。</p> <p>5. ERA 報告書の今後  (ア) 林先生から300報以降も続けても良いとの意向が示されたため、続けていくことで合意。</p> <p>6. 会計報告：現状を把握した。</p> <p>7. 研究会名  (ア) 事務局からサステイナビリティ研究会としてはどうかとの提案があり、検討した結果、サステイナビリティ研究会の名前では活動内容が分かりづらいのでバイオテクノロジー研究会のままで行くことで合意。また、部会は当面なくすことで合意。</p> <p>8. 研究会人事異動  (ア) 現在副会長の味の素の小林氏に代わり、加村氏が副会長に就かれた。</p> <p>9. ILSI-SE Asia 会議報告  (ア) 加村氏より、会議では遺伝子組換え技術は食物のサステイナビリティのために</p>

	<p>重要であることが議論されており、ILSI が重要視している課題であることが報告された。</p> <p>全体会議の後で勉強会を開催。林先生から ILSI CERA Update のお話があり、ILSI CERA の設立経緯から林先生のご活躍を含め ILSI CERA の現状が報告された。</p>
11, 12 月	<p>5 月 ERA ワークショップ・フォローアップ勉強会 11 月 14 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全部で 30 名近い参加があった。ILSI Japan 側から 5 月のワークショップのまとめとその後合意した Assessment endpoints の一つである競合における優位性に関して何を評価すれば良いのかについての提案を行い、その後で雑草の専門家として農研機構の黒川先生に「雑草の特徴について」の講演をお願いした。話し合った結果、雑草性をもたないトウモロコシ・ワタが侵略的雑草になるためには、まず、自生性を獲得する必要がある、自生性とは休眠性、脱粒性を持つことである。トウモロコシ・ワタがこれらの特性を獲得するかについては、米国のほ場試験データにより評価することができると考えられる（データトランスポートビリティ）となった。侵略的雑草になるかどうかを判断するときに、自生性がなければ侵略的雑草になることはないという論文を ILSI を中心に作成し、今後議論を深めていくこととした。</li> </ul> <p>全体会議を 12 月 15 日に開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA プロジェクト調査報告第 30 号勉強会       <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) ERA プロジェクト調査報告第 29 号 (OCT2016) 10 月発刊</li> <li>(イ) ERA プロジェクト調査報告第 30 号 (JAN2017) 1 月発刊予定</li> </ul> </li> <li>2. 2017 年の計画       <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 研究会 6 回</li> <li>(イ) ERA 報告書 6 報</li> <li>(ウ) 勉強会 3 回</li> <li>(エ) ISBGMO への参加</li> <li>(オ) ERA workshop (9-10 月)</li> <li>(カ) NBT workshop (5 月、または 9-10 月)</li> </ul> </li> <li>3. GM 食品添加物の今後について：       <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 高度精製食品添加物、高度精製食品について大きな進捗はない。今後、勉強会をどういう目的で行うのかを話し合い、実現させる。</li> </ul> </li> <li>4. NBT ワークショップ       <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 11 月 15 日に決定したが、その後、最新の知見の発表が 11 月 15 日では間に合わないとのことで、来年 2-3 月に延期することとなっていたが、更に延期が必要な情勢。現状では最速 5 月、あるいは 9-10 月も考える。農水省は 5 月に ILSI と SIP の共催を望んでおり、それを考慮しながら計画を立てる。</li> </ul> </li> <li>5. 会計報告：現状を把握した。</li> <li>6. 研究会人事異動       <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 現在副会長のバイエル クロップサイエンスの在田氏に代わり、ダウ・ケミカルの高橋氏が副会長に就かれた。</li> <li>(イ) 協和発酵の窓口が川田氏から野口氏に変更となった。</li> </ul> </li> </ol>